



## 京都府南部地域視覚支援 親子交流会 報告

日 時 令和元年7月30日（火）9：30～12：00  
場 所 京都府スーパーサポートセンター  
テ ー マ 児童生徒：「視覚障害者スポーツを体験しよう」  
保護者：「見えにくさのある子の子育てについて」  
講 師 京都府立盲学校 卒業生 高瀬 真依 氏  
京都府立盲学校 寄宿舍指導員 谷山 由基 氏

今年度も、京都府南部地域に居住する見えにくさのある児童生徒及びその保護者、兄弟姉妹を対象にして、交流会を開きました。当日は、児童生徒3名、保護者3名の計6名に参加していただきました。講師には、盲学校を卒業し現在ヘルスキーパーとして企業で働かれている高瀬舞依さん、盲学校寄宿舍指導員の谷山由基先生をお招きして、児童生徒向けのフロアバレーボールの指導をしていただきました。保護者向けには高瀬さんに視覚障害のある当事者としてのお話を伺いました。

フロアバレーボールは視覚障害者と晴眼者が一緒に楽しめるスポーツで、ボールは転がしてネットの下をくぐらせます。前衛の人はアイシェードをつけて何も見えない状態にします。児童生徒のみなさんは最初は少し緊張していましたが、ゲームが進むにつれて笑顔も増え、たくさん汗をかいてフロアバレーの活動を楽しむことができました。アイシェードをつけてボールを止めたり打ったりする体験をとおして、見るだけでなく音やチームメイトの声を聞いて体を動かすスポーツの楽しさを感じることができました。

保護者交流会では、小学生の保護者が参加され、学年が上がる不安や進路についての悩みに保護者同士で共感されながら交流が進みました。当事者である高瀬さんのお話から、子どもの「やりたい」という気持ちを尊重することや子ども自身が自立し意欲をもって努力をすることの大切さ、そして時に親は先回りするのではなく見守ることも大切であることがわかりました。

日頃交流する機会が限られている視覚障害のある児童生徒同士、その保護者の方々が集まることができ、温かいつながりを感じられた交流会となりました。



### 【参加者の感想】 抜粋

（保護者）子ども達が体を動かしてとても楽しそうにしていました。弱視体験めがねをかけてトランプをしたり、高瀬先生の話聞いて、とても良い時間になりました。

（保護者）去年も参加させていただいて、いろいろなお話が聞けて良かったので今回も参加させていただきました。今回も視覚についてお話ができて勉強になりました。

（児童生徒）楽しみながらできました。手を叩いて自分を呼んでくれたことが嬉しかったです。